



献血ってどうして必要なの？



病気やけがで血液が必要な患者さんは、健康な人の血液を補給して治療する必要があります（「**輸血**」といいます）。

その輸血に欠かせないのが「**献血**」です。

献血とは、輸血を受ける患者さんのために、自分の血液を無償で提供することです。

献血が必要なわけ

人工的に造れない！

現代は、医療技術がどんどん進歩しています。しかし、血液はいまだに人工的に造ることができません。

だから、「献血」でたくさんの人から血液を集めるしかないので。

長期保存ができない！

血液は生きた細胞の集まりなので、長い間保存ができません。

いつでも患者さんに血液を届けられるように、毎日新しい血液を確保しなくてはなりません。（詳しくは p.4 へ）

1日約3千人！

何の数字だと思いますか？

実は、輸血を受けている患者さんの数なんです。

毎日、こんなに多くの患者さんが、血液を必要としています。

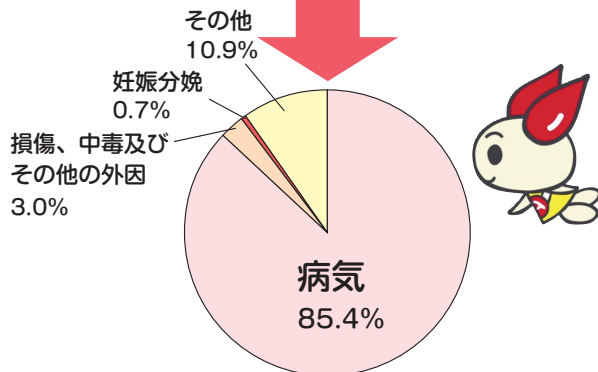
最多はがん治療！

輸血はどういう時に使われるのでしょうか？ 多くはがん治療で、約40%を占めます。

このような病気の治療で、血液は常に必要とされています。

「輸血」というと、大けがした時に使われるイメージがあるけれど・・・

けが治療はわずか3.0%で、ほとんどは病気の治療に使われているっち！



(平成25年 東京都福祉保健局調べ)